

パレスチナに平和を！緊急アピール行動

11月19日、『ねむろ「九条の会」』と『戦争させない・9条壊すな！総がかり行動根室実行委員会』の共催で、『すべての人々を殺すな ガザへの軍事攻撃を止め、即時停戦をパレスチナに平和を 根室 緊急アピール行動』（以下、アピール行動）が行われました。



「パレスチナに平和を」等のプラカードを手にアピール行動に集まった皆さん

第2083号

2023年11月26日

日本共産党根室市議団

根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

アピール行動は、西浜町8丁目のショッピングセンター前で行われました。冷たい風が吹く中、20名の市民が集まりました。

冒頭、ねむろ「九条の会」

の共同代表神忠志氏が開会あいさつ。神氏は、いまパレスチナで起きていること、その背景などについて述べるとともに、イスラエルを擁護するアメリカと、アメリカに追随する日本の岸田首相を厳しく批判。直ちに停戦するよう声を上げていこうと訴えました。

鈴木氏はアピールの中で、「イスラエルによるジェノサイド」集団虐殺を許してはならない」と述べ、「いま大事なのは私たち一人ひとりが声を上げること。街角で、SNSで、いろいろなところで『攻撃を止めよ』『ガザの子どもたちを救え』と声を上げよう」と訴えました。

その後のリレートークでは、自治労連ねむろ・くしろ地域自治体関連ユニオンから坂本勇治氏、日本共産党根室市議会議員団から鈴木一彦氏、全北海道退職教職員の会根室支部から柴草史郎氏、根室母親連絡会から宇井三喜子氏、道東勤医協友の会根室支部から神田雄一氏がそれぞれ

の立場でアピールを行いました。

鈴木氏はまた、岸田首相について「アメリカに従って国連決議に背を向け、イスラエルに対して中止も批判も一切言わないあまりにも恥ずかしい態度」と厳しく批判。さらに、岸田政権が軍事力の強化を宣言し、来年の「防衛費」を7・7兆円、わずか2年で1・5倍に増やそうとしていると指摘。「ミサイルと空爆で平和は作れない」「日本国憲法、9条を生かした政治の実現を」と述べました。

アピール行動の最後に、アピール文「すべての人々を殺すな ガザへの軍事攻撃を止め、即時停戦をパレスチナに平和を」

を手にアピール行動に集まった皆さん

和を ねむろ街頭宣伝アピール」をねむろ「九条の会」世話人の柴草道子氏が朗読、参加者全員の拍手で採択されました。

アピール文は、「私たちはイスラエルによる自衛権を名目にした、難民キャンプや病院をはじめとするガザ地区へのかつてない規模の武力攻撃、集団虐殺に強い怒りをもって抗議します」で始まっています。そして、ガザ地区での悲惨な現状、それに至る経緯などについて詳しく述べたうえで、「いまこそ国連憲章にもとづき国際社会が一致してイスラエルによる攻撃の中止を求めること」を強く訴えています。

最後に「日本政府においても、イスラエルともアラブ諸国とも関係を持つ国として、日本国憲法9条の理念にもとづく平和外交を貫き、この危機を乗り越えるために関係各国への働きかけを強化すること強く求めます」と締めくくられています。